



家庭や学校、地域、職場などさまざまな場所で人権学習を進めることはとても大切なことです。研修の方法にはさまざまな学習手法がありますが、人権について楽しく学ぶためにはどのような工夫が必要なのでしょう。

I

新聞記事やインターネット情報を活用した学習

近年、人権への関心が高まり、新聞には人権に関連するさまざまな記事が掲載されています。関連のある情報を切り抜いて、テーマ毎に分類・整理し、スクラップしておくことで学習資料として大いに活用できます。各紙によって論点や扱いの大きさが異なることもあるので、できるだけ多くの情報を集めることが大切です。論説や読者欄の興味深い記事をもとに意見交換を行うことも、そのテーマを深めることに効果的です。

また、インターネットの検索サイトを利用して、学習テーマに沿った情報を検索し、活用することも試してみましょう。

（インターネット上の情報には、根拠が不明なものも多く含まれています。情報を活用する場合は、信頼できる情報源であるかどうかをよく確認しましょう。）



II

本や映画等を活用した研修

人権啓発冊子や啓発DVD等の活用はもちろんのこと、さまざまな人権をテーマとする話題になった書籍（絵本やコミックも含む）や映画を教材として活用することは、参加者の興味を引きまします。

また、文学作品や映画等を題材にし、その作品が生まれた社会的背景などと共に学ぶことは、さまざまな人権課題の本質を理解するために役立ちます。

日頃から多くの作品に触れることを呼びかけましょう。それらの作品を通じて当事者がおかれた立場を理解することや著者の思いに共感することは、人権感覚を磨くことに大いに役立ちます。

III

参加体験型学習（ワークショップ）の手法と活用方法

ワークショップとは、講師から知識や情報を受け取るだけでなく、参加者の一人ひとりが学習に主体的に参加し、意見交換したり調べたり発表したり体験したりすることなどを通して、こころと頭と身体で学んでいく学習方法をいいます。

ゲーム的な要素を取り入れ、和やかな雰囲気の中で進められるため、気づいたことを自由に出し合うことができます。多角的な考えにふれることで生まれる「気づき」や「学び合い」、異なるものの見方で自分自身を見つめ直す「ふりかえり」を大切に、豊かな人間関係を育む力や積極的に課題解決に向けて行動していく力などが育まれます。

ファシリテーター（進行役）

ワークショップは、ファシリテーターと呼ばれる進行役によって進められます。ファシリテーターは、プログラムづくりなどの事前準備からワークショップの実践、さらに学習を振り返り具体的な取組を参加者全員の目標として掲げ、行動につなげるという役割も担っています。

ワークショップには、さまざまな手法があります。それらを組み合わせることによって、討議する、調べる、分析する、体験するなどの活動を行います。主な手法を紹介します。

アイスブレイキング

学習を始める前の参加者の氷のように固い緊張感をほぐすという意味で、参加者が主体的に学習する雰囲気をつくり出すことができます。簡単なゲームや自己紹介など、参加者同士のコミュニケーションが円滑になるような活動が中心に行われています。

ブレインストーミング (発想法)

学習テーマについて、参加者からより多くの考えやアイデアを引き出す方法です。この学習では、参加者は人の考えについて批判や批評をしてはいけません。出来るだけたくさんのアイデアを出し合います。

K J 法 (分類法)

ブレインストーミングによって出された考えやアイデア、収集したデータや情報をカード化して、共通すると思われるテーマごとに分類し、整理する手法です。分類毎に見出しをつけたり、矢印でそれぞれの関係を表したりして、学習テーマの問題点や解決方法をみんなで整理することができます。

ロールプレイ (役割劇)

学習内容に応じた場面設定をし、その中で参加者が演技者（例えばいじめにあっている子ども、その親、教師、いじめている子どもなど）と観察者（演技をみて評価する人）をそれぞれ分担します。現実の問題を模擬的に演じるにより、自分のところを自由に表現したり、お互いの立場や状況を深く知ることができます。

フィールドワーク (現地研修)

フィールドワークとは、学習テーマに基づいて参加者が現地に出かけて行き、調査や聞き取りを行うことにより、参加者の問題意識や主体的な参加を引き出すことができる手法です。この手法は、学習計画をしっかりと立てるとともに、事前学習を十分に行うことが大切です。また、フィールドワークの結果は、後に発表し合ったり意見交換することで確認し合います。

模擬体験・疑似体験

例えば障害者問題を学ぶため車椅子に乗ったり、アイマスク体験をしたりする学習方法で、学習のテーマにそって参加者がより現実に近い状況のなかで模擬的・疑似的に体験しながらわかりやすく学ぶことができます。ただし、始める前に活動の説明を行い、安全を十分に確保しながら、目的意識をもって参加できるようにすることが大切です。





学習例

- テーマ 「しきたり、生活改善」
- ねらい 我が家〈自分〉からできる生活改善について考える。
- 準備物 事前アンケート結果、大きめの紙、マジック、A4の紙

流れ	学習内容
気づき	オリエンテーション ● 主催者から、アンケートの内容も含めて、ふだんの生活の中には、気づきにくい不合理や矛盾などがあることを例をあげて話をしてもらう。 ● 資料としてアンケート結果を配布。
広げる・深める 	① アイスブレイキングによるグループ分け ● 5～6人で1グループ、役割分担。 ② ブレンストーミング ● アンケート結果を参考にするなどして、不合理や矛盾と思っていることをフリートールキングで出してもらう。 ● みんなにわかるように、一枚ずつ名刺サイズのカードに書いてもらう。 ③ 分類法（KJ法） ● 内容により分類する。 ④ ランキング ● この中で、特にみんながこれは重要だと思うものを選ぶ。 ● 出てきた意見をしぼる。（1つか2つ） ⑤ 討論（ディスカッション） ● なぜ今まで残っているのか。 ● どのような問題があるのか。 ● どのようにすれば問題が解決するのか。 時間の配分を考えてすすめる。
計画 	● 実践してもらうために、目標達成のために、どう周知していくのかを計画する。 ● 啓発、例えば自治会に働きかけ、全団体に呼びかける。 ● （ポスター、チラシ等の作成など）今年（今月）の目標テーマを決める。
まとめ 	下記の実践が大切であることの共通理解をする。 ① 具体的実践目標を定める。 ② 目標の周知徹底をする。 ③ 実践のチェックを行う。 ①、②、③については時間の関係で①だけにしてもよい。 ②、③については次回にまわすなどする

事前アンケート（例）

「日常生活の中で不合理や矛盾、根拠のない風習・慣習などを感じたことについてご記入ください。」

- ① 不合理や矛盾を感じたこと。
- ② 根拠のない風習・慣習を感じたこと。
- ③ その他日常生活で当たり前にも思われているが、おかしいのではないか、と感じること。

しが生涯学習スクエアでは、人権啓発用のビデオ等を無料で貸し出しています。地域、学校、職場などでご活用ください。ホームページからも予約できます。

● 問い合わせ／しが生涯学習スクエア （滋賀県教育委員会事務局生涯学習課）

TEL 077-528-4652 FAX 077-528-4962
ホームページ／<http://www.nionet.jp/>
（滋賀県学習情報提供システム「にねっと」）